義務教育学校　　小笠原村立母島小中学校

児　童　・　生　徒　数
児童数　18　名　生徒数　6　名（令和８年４月現在）

住所　〒100-2211　東京都小笠原村母島字元地
電話　04998-3-2181/2182　　FAX 04998-3-2184
HP　https://www.hahashouchu.ogasawara.ed.jp

教育目標

母島を誇りに思い、共によりよい社会を築くことのできる人間を目指し、自ら困難を乗り越え、思いやりをもって心豊かにたくましく生きる児童・生徒の育成を図る。

（１）　意欲的に学ぶ児童・生徒
（２）　自らきたえる児童・生徒
（３）　社会のために尽くす児童・生徒

母島で教え、教わる

東京から約一〇〇〇km南の小笠原諸島、そこに母島はあります。

竹芝桟橋からおがさわら丸で父島へ、そこから、ははじま丸に乗り継ぐ二航海。母島に着くには二十六時間ほどの時間が必要です。母島が近づく中で目にする光景が心に焼きつき、忘れられないものになることでしょう。ボニンブルーと呼ばれる海の色、島の木々の鮮やかな色合いが作り出す景色。母島での教員としての生活はこの環境の中から始まります。

ここで、子どもたちと関わり、日々の生活を送る中で大切なことを教わっているような気がします。

ここでの経験は教員として、かけがえのないものとなるはずです。

義務教育学校２年目を迎えました

令和７年度より校種が義務教育学校となり、「母島小中学校」としてスタートしました。義務教育学校とは、小学部（１～６年）と中学部（１～３年）を一体化して運営する学校で、９年間を通した教育課程を提供する学校制度です。東京都内にまだ 11 校しかありません。義務教育学校だからこそできることを研究しています。

9年間の教育課程を見据えた一貫性のある指導を
あなたも研究・実践してみませんか。

令和八年度赴任者の声

母島の子どもたちの印象は？

一つの校舎内で過ごしているため小学部生と中学部生の仲がとても良いです。子どもたちはとても素直で人懐っこく、私たち教員も小学部生、中学部生の垣根なく子どもたちと接することができます。

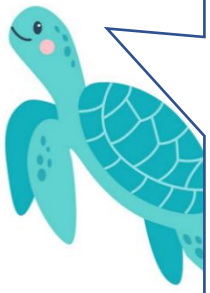
私は中学校籍ですが、小学部の授業等に参加して子どもたちの特性や能力に触れることで、その子どもたちが中学部に上がったら…を直接見ながら考えられることがとても刺激になっています。

仕事でやりがいを感じる時はどんな時ですか？

間違いなく「日々の授業」です。準備する時間がたっぷりあるため、一人一人の習熟度に合わせた教材を準備したり、地域に絡めた教材を準備したりと、その生徒に向けたリアルな授業ができます。

また、義務教育学校ということもあり、小学部の授業も積極的に見学でき、教員自身が中学部との体系的な繋がりを体感できます。実際に小学部の授業に参加する機会もあり、めったにできない経験が積めることも！

島での生活は大変ですか？



大変です。（いい意味で！）なぜなら、海がすぐそばにあるので、マリンレジャーに釣りに散歩。忙しいのです。何かとイベントが多く、教員としてお手伝いをすることもあります。人によっては、当事者となって参加している先生もいます。職員室内はいい人ばかりなので、すぐに音楽やスポーツ等のクラブにあなたを誘います。あとは物価が高いとか、週一でしか配達物が来ないなどありますが、すぐ慣れるので大丈夫です。